

第19回ショパン国際ピアノコンクールで注目を集めた
マレーシア出身ピアニスト待望のソロリサイタル開催！

カワイコンサート | No.2371 |
電気文化会館 開館40周年記念

ヴィンセント・オン

ピアノ・リサイタル

Vincent Ong Piano Recital

使用ピアノ
カワイフルコンサートピアノSK-EX  SHIGERU KAWAI



© W. Grzędziński/NIFC

MESSAGE

この素晴らしい機会をいただいたこと、そして再びShigeru Kawaiを弾けることに心から感謝しています。
日本でのコンサートをとても楽しみにしています。どうぞ会場で、演奏を楽しんでください！

——— ヴィンセント・オン

日時 2026
7/17 (金)
開場 18:30 開演 19:00

PROGRAM

ブラームス : ロベルト・シューマンの主題による変奏曲 嬰へ短調 Op.9
J. Brahms Variations on a Theme by R. Schumann Op.9

ハイドン : ラルゴ・アッサイ ホ長調
F.J. Haydn Largo assai in E major

ハイドン : ソナタ 第46番 ホ長調 Hob.XVI:31
F.J. Haydn Sonata No.46 in E major Hob.XVI:31

バルトーク : 3つの練習曲 Op.18 BB 81
B. Bartók 3 Studies Op.18 BB 81

ショパン : 24の前奏曲 Op.28
F.Chopin 24 Preludes Op.28

※曲目・曲順は一部変更になる場合がございます。

会場 **ザコンサートホール**
名古屋・伏見・電気文化会館
愛知県名古屋市中区栄二丁目2番5号

料金 一般券 5,500円 (税込)

全席
指定

プレイガイド

イープラスにて
2026 3/17 (火) 10:30より発売

下記URLまたはQRコードからチケットをお申し込みください。
<https://eplus.jp/sf/detail/4471740001-P0030001>



お問合せ

カワイ名古屋
TEL. 052-962-3939



©K. Szlezak/NIFC

PROFILE

ピアニスト
ヴィンセント・オン

Vincent Ong

2001年マレーシア生まれ。4歳でピアノを始め、ピアニスト・作曲家のン・チョン・リムのもとで学びはじめる。2024年に

第19回シューマン国際コンクールで第1位を受賞。

2025年 第19回ショパン国際ピアノコンクールで一躍世界的注目を集め、第5位入賞、および聴衆賞第2位に輝いた。

2023年に母国マレーシアを離れ、ベルリンのハンス・アイスラー音楽大学でエルダー・ネボルシンに師事。ほかに、これまでエリザベート・レオンスカヤ、ナターリア・トゥルル、ボリス・ベルマン、エリソ・ヴィルサラゼ、キリル・ゲルシュタインといった著名な音楽家たちの教えを受けている。

最初のコンクールでの成功は2018年の台北の国際マエストロ・ピアノ・フェスティバルでの優勝。2020年にはシンガポール国際ピアノコンクールで入賞した。2023年にモーリス・ラヴェル記念ピアノ奨励賞受賞。2025年にフランスのノアン・ショパン音楽祭へ招待され出演。

ハンス・アイスラー大学のルチア・ローザ財団、およびスイスのクラヴァルテ財団の奨学生であり、ウィーンのリーヴェン国際ピアノ財団のメンバーでもある。

バッハからショパン、リゲティに至るレパートリーにおいて、ヴィンセント・オンは知的な深みと詩的な表現を融合させる。彼の芸術性は、天賦の音楽的センスに加え、作曲や即興演奏への情熱、そしてピアノ技術への尽きぬ探求心によっても形作られている。

会場アクセス



●交通機関のご案内

《地下鉄でお越しの方》

東山線・鶴舞線「伏見」駅 4番出口より東へ徒歩2分

《車でお越しの方》

広小路長島町の信号を南へ30m
右側に駐車場入口あり

駐車場について

[有料30分170円(税込価格)]

※ご来館にはできるだけ公共の交通機関をご利用ください。

KAWAI



株式会社 河合楽器製作所

第5位入賞
Vincent Ong
ヴィンセント・オン (マレーシア)
©Wojciech Grzydzinski / NIFC

世界の舞台から、夢の先へ。

第19回ショパン国際ピアノコンクール

一音に向き合うピアニストが喝采を浴びた日。

2025年10月、世界最高峰の

「第19回ショパン国際ピアノコンクール」において

84名中21名がフルコンサートピアノ「S.K.E.X」を選び、

本選に進出した3名が3位と5位に輝いた。

真摯に磨いてきた技と思いに応え、ともに紡ぎ出す音色は

今日の感動を超えて明日の夢を切り拓いていく。



SHIGERU KAWAI